

インターネットを用いた災害指揮所訓練支援システムの開発

瀧本 浩一*

Development of Online Support System for Command Post Exercise for a Disaster Countermeasure by using Internet

Koichi TAKIMOTO*

1. はじめに

大規模地震発生時の直後対応は重要であり、地域では自主防災組織を主体として普段から災害を想定して情報収集や整理、共有の方法、対応を検討する訓練を行い、その問題点を洗い出しておく必要がある。しかし、現在の防災訓練では防災訓練＝避難訓練という形がほとんどであるため、地域という集団で災害に立ち向かうことを教える実践的訓練はあまり定着していない。このような背景から、自主防災組織のような住民組織に対して、自衛隊訓練方式の災害指揮所訓練 (Command Post Exercise : 以下 CPX と呼ぶ) が行われ始めた⁽¹⁾。しかし、この訓練には事前の準備や訓練の運営に大変な労力がかかるという問題を抱えている。

そこで、本研究では、インターネットを用いたオンライン CPX の準備と実施を支援するシステムの開発を行った。本稿では、CPX の概要と問題点および研究目的、提案するオンライン CPX 支援システム開発の概要を述べ、その試作したシステムのインターフェイスについての評価結果について報告する。

2. 災害指揮所訓練の概要

CPX とは、自衛隊で行われている訓練の一つで、戦術・戦略を習熟するための情報収集・状況把握・意志決定の訓練を机上の地図と紙による情報のやりとりを行うものである。以下にその概要について述べる。

2.1 訓練の概要

CPX の訓練は、訓練する側であるコントローラと訓練を受ける側の参加者との間での紙によるやりとりによって進行される。各参加者 (自主防災組織、自治会など) には図 1 のように研修会場内に各々ブースを用意し、これをそれぞれのグループの災害時の仮定の拠点とする。また、各グループには 1 名のコントローラスタッフ (以下スタッフと呼ぶ) を当てる。

まず、訓練の準備としてスタッフは、訓練目的を念頭に入れ、参加者居住地域の地図上に被害を設定し、被害規模、地震発生日時、人的被害、物的被害、行政の対応の状況などについて地震発生からの時間経過ごとの各グループのおおまかな救援などのニーズの変化を状況付与カードと呼ばれる用紙に 1 枚ずつ記入する。

次に、訓練実施について説明する。訓練が開始されると、スタッフはグループごとに作成した「状況付与

* 山口大学大学院理工学研究科 (Graduate School of Science and Engineering, Yamaguchi University)

受付日: 2010 年 12 月 3 日; 再受付日: 2011 年 2 月 15 日; 採録日: 2011 年 2 月 24 日